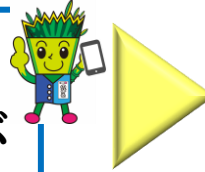


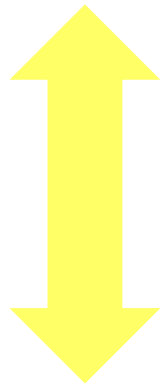
【取組内容①】『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

子供が、目的を意識して
提案テーマ・学習形態・アプリを選ぶ



学習者主体で国語科の
「書くこと」の授業をデザイン

実践のポイント



- これまで培ってきた対話型の授業をベースに、子供一人一人が自らの学習状況に応じて、提案するテーマから使用するアプリまでを選択したり決定したりした。
- 単元内の中では、単元内一部自由進度学習の考えを取り入れ、情報の収集・共有・整理は協働を通して行ったり、提案資料の作成の見通しをもったりできるようにした。
- 単元の冒頭では、前時や既習単元の振り返りを基に、課題となった点、困った点などを出し合い、教師が学級全体に問い掛けたり、友達にアイデアをもらったりしてよいことを確認した。
- 単元内及び授業の途中では、子供から質問があれば、全体で共有した方がよいことについて、全体に伝えるようにした。
- 発表前には、発表の形態も自分たちで選択することができるようにした（一人、ペア、複数など）。また、調べたり、資料を作成したりするときはグループであっても、発表は一人、また、その逆もあるなど、子供たちが自分の興味・関心、自らの学習状況等に応じて発表の形態も選ぶことができるようにした。

今までの授業

- 子供たちの提案資料の書きぶりが、似かよってしまったり、内容の独自性が乏しかったりする。
- 内容や構成がほぼ同じであるため、共有の過程で互いの作品について言及しにくい。

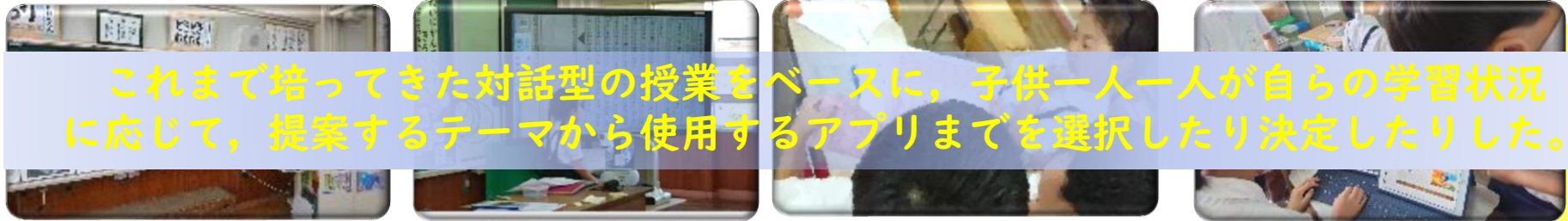
- ◆ 子供が自ら問いを立てる。
- ◆ 子供が課題解決の方法を見通す。
- ◆ 子供が学習方法を選択する。
- ◆ 子供が試行錯誤しながら協働する。
- ◆ 子供が自らの学びを生かし、次に生かす。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立田上小学校

【取組内容①】 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実



これまで培ってきた対話型の授業をベースに、子供一人一人が自らの学習状況に応じて、提案するテーマから使用するアプリまでを選択したり決定したりした。

学習課題

この単元では、相手に提案するときの構成の特徴を知り、事実と意見を区別しながら筋道の通った提案をすることができるようになる学習をします。

そのための課題は、

自分の主張を支える材料を集めたり分類したり、関係付けたりしながら、「『今』、わたしたちにできること」をつくることです。

自分の問い

- 相手に共感してもらえる提案にするには、どのような資料や話し方をするとよいのだろうか。
- 友達は、どんな速さで発表したり、声の調整をしたりしているのだろうか。

児童A：□□さんの発表がよかったよね。

児童B：うん。よかった。一人だけMicrosoft Wordを使っていたよね。どうしてかなあ。分かりやすいからかな。

児童C：いや、きっと選んだテーマが関係しているんだよ。□□さんは、紙のチラシを配るのはもったいないということを発表していたよね。だから、Microsoft Wordで提案資料を作ること、一枚の紙をデジタルでみんなで見せるということをしていただけかな。（Microsoft Teamsにアクセスしながら説明をする。）



一人で



ペアで

他者の発表内容を捉えて、アプリの選択の意図を推し量ったり聞いたりする子供の姿が見られた。



自分のタイミングで端末にアクセス